



日 本自動車会議所は2月19日、東京・港区の日本自動車会館「くるまプラザ」会議室で第256回会員研修会を開催し、ITS Japan専務理事の天野肇氏が「新たなモビリティサービス実現に向けた課題と展望」と題して講演を行った。参加者は約70名。

【講演のポイント】

(1) 交通問題および社会的課題への取り組み

ITS Japanでは、「交通事故ゼロ、渋滞ゼロ、快適移動」をビジョンに、ITS (Intelligent Transport Systems: 高度道路交通システム) に関連する各種の提言やビジネスの実現、世界会議の主催や出席などの活動をかねてより実施してきた。

現在は、これまでの活動内容を継続しつつ、「少子高齢化」「地方経済の衰退」といった日本が抱えている社会的課題の解決にITSがいかに貢献できるかをテーマに議論を進めており、「安全で健康的に、全ての国民がどんな地域でも暮らせる日本」を目指して方針策定を行っている。

(2) ITSをめぐる国際競争の激化とわが国の動向

わが国でも前述のITSに関するさまざまな取り組みが行なわれている一方で、米国では「スマートシティ・チャレンジ」がオハイオ州コロンバスで行なわれ、ニューヨークやタンパでもITSの実証実験を開始。欧州でも欧州委員会主導による取り組みをはじめとして各国独自のプロジェクトが進められており、ITS分野での国際競争が日々激化している。

日本政府としても昨年閣議決定した「未来投資戦略 2018」の中で、日本から世界に先駆けて自動運転、

ならびに公共交通全体のスマート化を含む次世代モビリティシステムを実現するとの方向性を示した。また、同日には「官民ITS構想・ロードマップ 2018」で「世界一のITSを構築し、日本、世界に貢献する」として、

2020年の高度な自動運転の実現に必要な法制度の整備を進めることが決定された。

(3) 新たなモビリティサービスの実現に向けて

ICT (情報通信技術)、自動運転等の新たな技術開発などが進展し、様々な移動を1つのサービスとして捉えるMaaS (Mobility as a Service) の概念が登場した。こうした交通分野の様々な課題を解決するMaaSなどの新たなモビリティサービスの活用により、都市・地方が抱える交通サービスの諸課題を解決することが目指されている。

MaaSの実現は、地方部における交通手段の確保、都市部における渋滞緩和、さらにはスマートシティの実現等にも資する。ITSは「スマートシティ」といった新たな価値創造に資するものであり、社会が抱えるさまざまな課題の解消につながっていくものである。

ITS Japanは引き続き産官学の連携の要として、安全で円滑、利便性の高い道路交通の実現を目指し産官学の連携に積極的に取り組む。今後とも皆様のご協力をよろしくお願ひしたい。



天野肇氏